

経営比較分析表（平成28年度決算）

奈良県南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	25	対象	ド透訓	救感へ災輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	22,396	非該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
228	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	232
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
232	-	232

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
【	平成28年度全国平均

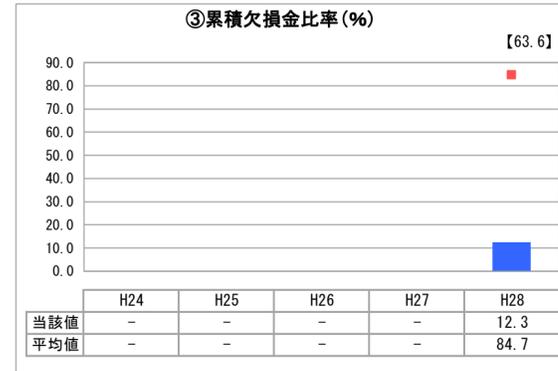
1. 経営の健全性・効率性



「経常損益」



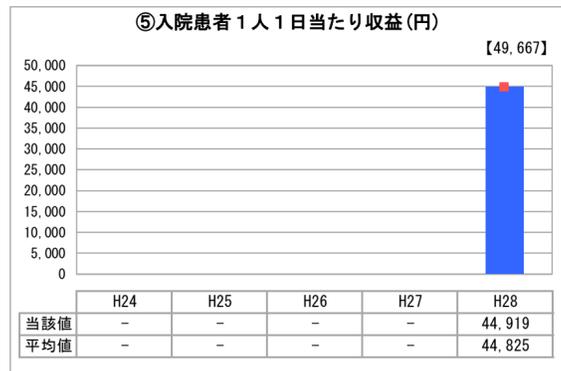
「医業損益」



「累積欠損」



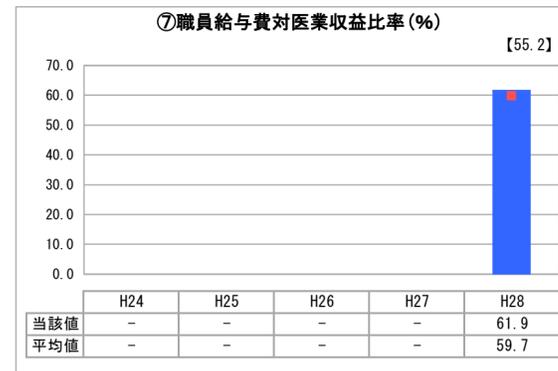
「施設の効率性」



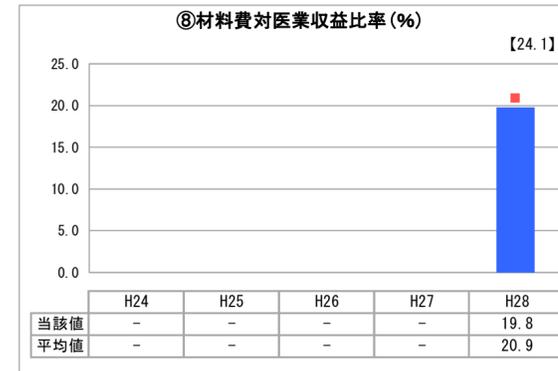
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

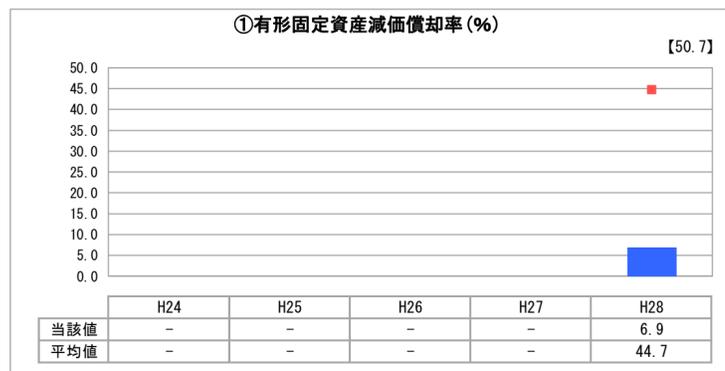


「費用の効率性①」

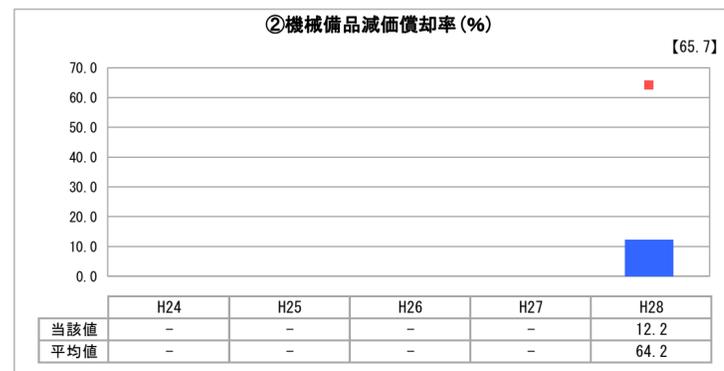


「費用の効率性②」

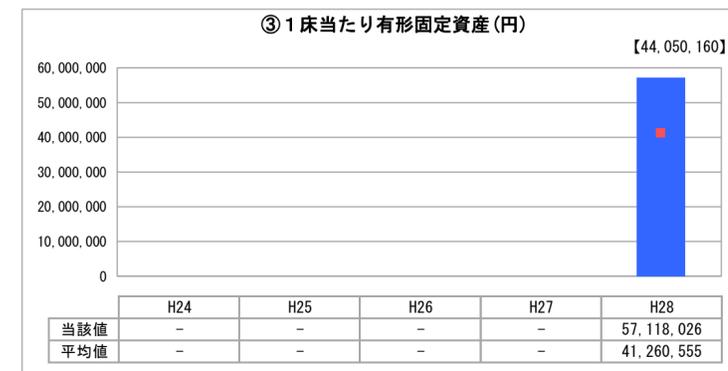
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

南和保健医療圏における唯一の救急告示病院としての救急医療、小児救急医療、地域の中核病院としての消化器疾患、糖尿病、外傷・運動器疾患等の専門医療、災害時に対応する医療、在宅への連携を見据えた高齢者医療、へき地医療への対応

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

南和保健医療圏内の公立3病院の病院機能を再編し、医療圏内における救急病院（急性期）として平成28年度から運営を開始した。平成28年度は開院間もないこともあり、「④病床利用率」は平均値より高くなっているものの、「②医業収支比率」が平均値より低くなっているため、収益向上に向けた取り組みが求められる。

2. 老朽化の状況について

医療圏内の公立3病院の再編により、新たに救急病院（急性期）として施設整備を行ったため、③「1床当たりの有形固定資産」は平均値より高くなっている。初期投資が賄えるよう収益向上に向けた取り組みが求められる。

全体総括

南和保健医療圏内の公立3病院を1つの救急病院（急性期）と2つの地域医療センター（回復期・慢性期）に再編し、平成28年度から運用開始した。

今後は、収入の確保等公立病院改革プラン（南和広域医療企業団中期計画）に基づく取り組みが求められる。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。